



関工3D プリンターで地域医療に貢献 ～ 学んだ知識を活かす行動に感謝 ～

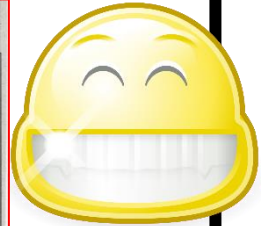
先日、一関医師会の中野会長様から、フェースシールドの製作について、関工に問い合わせがありました。みなさんご承知のとおりコロナウイルス感染症の対応で、医療現場では、マスクや防護服の他、フェースシールドについても不足しており、一関市内の病院で注文しても、なかなか納品されない状況です。

そんな中、数学科の久保田先生から、3Dプリンターでフェースシールドを作れないかという提案が電子機械科にありました。日本ではZortraxM300Plus3Dプリンターのユーザーである大阪大学大学院医学系研究科の中島先生が逸早く製作にあたり、10万個のシールドを無料で医療現場に配布するプロジェクトが進行していることを知りました。

関工では、フェースシールドの試作品を医師会の先生方に観てもらったところ、是非頂きたい旨のお話が学校にありました。電子機械科と電子科では、3Dプリンターを稼働してフェースシールドの製作に取りかかっています。完成した製品のバリ取りは生徒会の生徒達が行っています。学校は、完成したのから順に一関医師会に届けて行く予定です。

テレビでは、市民が医療現場で働く人達を応援する姿が放送されています。ものづくりを学ぶ工業高校生が地元医療現場の為に協力出来ることは素晴らしいです。

～いま 関工がおもしろい～



岩手日報新聞 R2年4月30日

技術の標 ここに在り

